

会 議 録

会議の名称		第11回守谷生まれの食品推進協議会		
開催日時		令和元年8月26日（月） 開会：午前10時00分　閉会：午前11時30分		
開催場所		守谷市役所 1階 小会議室		
事務局（担当課）		生活経済部 経済課		
出席者	委員	西田会長，今西委員，杉原委員，鈴木委員，黒島委員， 梅木委員，相良委員，森山委員，高島委員，伊東委員 計10人		
	市職員	経済課 北澤課長，間島課長補佐，染谷主査，長妻係長 計4人		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第		1 開 会 2 会長あいさつ 3 委任状交付 4 協議事項 ・守谷生まれの食品登録事業者PR用マップの作成について ・啓発用消耗品の作成について 5 その他 6 閉会		

確定年月日	会議録署名
令和元年9月10日	西田 昌明

審 議 経 過

1 開 会

事務局：本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第11回守谷生まれの食品推進協議会を開会いたします。はじめに会長からごあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

会長：委員の皆様、そして事務局の皆様、本日は大変お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。報道によりますと、もう秋雨前線が発生して、天候の方、ところによっては不安定になっているということが報じられております。秋の素晴らしいお天気も少し先になるのではないかというふうに思っております。

当協議会の方ですが、今回で11回目を迎えます。第1回目が平成27年の10月1日です。従いまして、もうわずかで4年が経つわけでございます。今日は新しく委員になられた方がおりますので、参考のためにもと思ひまして、私、大ざっぱに、今までの10回を振り返ってみたいと思ひます。皆さん方は参考までに、あの時私はこんなことを考えていたとか、そんなことを思い出すのも結構じゃないかと思ひますので、ちょっとお話をさせていただきたいと思ひます。守谷生まれの食品とは何というところから始まったわけですね。名物はないし、これといって人に誇れるものもないということで、みんな戸惑いました。それも色々協議をしたり、皆さん方とお互いに話し合いながら理解を得てクリアいたしました。その次に守谷生まれの食品とは何だろうということと共に、これからの目的は何なのか、そして守谷生まれの食品をとおして豊かな家庭や地域の絆を築いて守谷の新しい魅力を発見し、まちづくりを推進するということが理念の一つであります。そのほかにもいろいろ目的とするところはあるのですが、そんなことで、スタートを切ったわけでありまして。それから回を重ねる度に1人でも多くの方々に、活動内容を知っていただく努力を重ねて参りました。参考までにどんなことをやったのかということになります。その1例が全国に呼びかけまして、ロゴマークを公募いたしました。残念ながら守谷からの当選者はいなかったのですが、立派なロゴマークができたわけです。そしてまた、市内の小学校のお子さんに、守谷生まれの食品に関するシールとか、クリアファイルなどを配布いたしまして、家庭で、お父さんお母さん方を含めてお話しするような機会も作ってもらいたくて、そんなことをしました。それから、小学校、中学校の生徒さんに、守谷生まれの食品推進PRポスターを募集いたしました。これも良いポスターができ上がりました。それにまた守谷生まれの食品協力店を募集いたしまして、40店の事業者の応募をいただいております。この辺は詳しく後程、事務局の方からお話があると思ひます。また、今後も協力をいただける事業者をたくさん作っていきたくと思ひます。お手元に次

第がありますが、今日は、協議事項、守谷生まれの食品登録事業者PR用マップの作成について、それから、啓発用消耗品の作成について皆さん方の貴重なご意見をいただきながら、これを作っていきたいと思います。それをまた一つのツールとして、事業者さんに素晴らしいものをお願いしていきたいと思っております。そんなことで、皆さん方の貴重なご意見を賜りまして、さらにまた、この推進協議会が、前へ進んでいけるようにしていきたいと思っておりますので、皆さん方のご協力をお願いいたします。以上です。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。申し遅れましたが、私、今年度4月の人事異動により経済課に異動になりまして、この協議会を担当することになりました。染谷と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。会議を始める前に資料の確認をお願いいたします。事前に配布させていただきました資料となりますが、次第とカラー資料の第11回守谷生まれの食品推進協議会となります。なお、追加資料といたしまして、1枚カラー刷りの資料が追加になっております。資料の方、皆様ございますでしょうか。本日の協議会ですが、13名中10名の委員の出席をいただいておりますので、守谷生まれの食品推進協議会設置要項第5条第2項の規定により会議が成立することをご報告いたします。また本協議会は、守谷市審議会の会議の公開に関する指針に基づき公開となっております。本日は傍聴の方はございません。なお、本日の審議を記録するために録音をさせていただきますのでご了承ください。また、本日は、会議録が作成できるシステムを使うことになっておりますので、皆様のお手元にありますマイクで発言をお願いいたします。それでは会議の進行を会長をお願いいたします。

会長：只今、事務局の方からお話がありましたように、傍聴される方は本日はおりません。したがって、こちらからは皆さん方にお諮りするのですが、前回の会議でお諮りしました会議録における発言者の氏名を記載することにつきましては、今回もそのようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員： 一異議なし。一

会長：異議なしという声がありましたので、そのようにさせていただきたいと思っております。では、次第の3、委嘱状の交付について事務局から説明をお願いしたいと思います。

3 委嘱状の交付

事務局：はい。3月27日開催の第10回、協議会に諮りました委員の変更に伴い、今回委嘱状を交付するものです。新しく委嘱状を交付するのは、生産者の代表であります守谷やさい村として森山博さん。高島艶子さんの2名と、株式会

社もりやコレクションの店長であります伊東昭彦さんです。それでは伝達を、会長からよろしく願いいたします。

新規委員： 一委嘱状交付一

会長：それでは、新しく委員になられました3名の方、自己紹介も兼ねまして簡単にご挨拶をいただけますでしょうか。

森山：ただいまご紹介に預かりました、皆さんご存知だと思っておりますが、常磐道上り線のサービスエリアに守谷やさい村っていうお店がありまして、地元の生産者の生産物を販売している場所があるのですがそのやさい村に3年前からアルバイトのかたちで勤務させていただいて、今、前の店長が急遽やめられましたので、私は3年目なのですが、店長を任されております。現役時代は、東京の方にサラリーマンとして実家から通っておりました。守谷の生産物とかそういう認識は全然なかったのですが、たまたまやさい村に勤務するようになってからはちょっと興味を持ちまして、やさい村の会長の方から、お前ちょっと勉強してこいっていうかたちで、今回委嘱されましたのでよろしく願いいたします。一応、昭和23年生まれで72歳になります。よろしく願いいたします。

高島：守谷やさい村の高島です。森山さんと一緒にやっていますので、よろしく願いいたします。

伊東：もりやコレクションの代表取締役と店長を担当させていただいております。本来、開業時に女性の方を指名したのですが、都合が悪くなり、急遽、代表兼店長というかたちでちょっと異例ではあるのですが、店長の方も担当させていただいているところでございます。以前は守谷スタイルさんの方が担当されていたかと思うのですが、皆さんご存知だと思いますが、守谷スタイルさんが閉店になりまして、以前の経営陣から後をやってほしいというご要望をいただきましたので、別途、会社を立ち上げまして、今、同じ場所で、もりやコレクションっていう名前でお店を立ち上げているところでございます。地域の野菜とか地域の食品を扱わせていただいております。少しでも地域のブランド力向上に寄与できればと考えているところでございます。今後ともよろしく願いいたします。

会長：それでは、協議事項に入って参りたいと思います。新しく委員として委嘱されました3名の方、どうぞよろしく願いいたします。次に次第の4に入っていきたいと思います。協議事項の1、守谷生まれの食品登録事業者PR用マップの作成について、事務局から説明をお願いいたします。

4 協議事項

事務局：はい。お手元の資料をご覧ください。表紙をめくっていただいた、3ページ目になります。3月27日開催の第10回、協議会に諮りましたPR用冊子についてですが、A5サイズで、持ち歩きしやすい約15ページから20ページに納めたものということで、ご説明いたしました。実際にA5サイズというところのようなサイズになりまして、見開きがA4ということですので、縦にするところといった大きさになります。ただ、A5サイズですとちょっと見えにくい部分もございますので、A1サイズの大きさにしてはどうかというかたちで方向転換をしております。その大きさにいたしまして、地図面も、事業者の紹介記事面も見やすいものにしてはどうかというふうにいたしました。イメージといたしましては、交通防災課で全戸配布しております守谷市防災ハザードマップの大きさになります。実際の大きさがこの大きさになります。記事面といたしまして、お店の紹介がこちらに10センチ角の大きさに配置しております。この大きさですとここまでが39店舗、現在39店舗が登録されておまして、あと3つの枠がございます。この10センチ角のスペースの中には、事業所名と店舗の写真、あとは取扱商品の写真を何とか納めたいというふうに思っております。その下にその店舗の紹介記事であったり、おすすめの商品の記事であったり、そういったものを店舗の方に依頼いたしまして、頂いた内容を掲載したいと思っております。反対側の地図面の方になりますが、39店舗を地図上にマッピングしますと、結構端から端まで場所が点在するようなかたちになっておりますので、やはりA5サイズ見開きA4サイズですと、ちょっと地図を見るのに目が痛くなってしまうようなそんな感じがありますので、逆にこの大きさにいたしましてここに番号なりの表示をして、その凡例がこちらになります。店舗の中で、イベントのみに参加している事業者様や工場見学もできる事業者様、普通に日用品、食料品なんかを売っているところ。あとはパンとか和洋菓子を売っているお店やカフェ、お土産なんかも買えるところがありますので、それらを分類して、一覧表で掲載したいと思っております。その上には守谷生まれの食品の定義を載せようと思っております。そして下段にPR用のポスターを配置して、右上には、地産地消の守谷市としての取り組みを掲載したいと思っております。予算の方が55万円なのですが、それで印刷できる分だけ印刷しようと考えております。私が今、言いました地図面に関する情報ですが、資料の6ページから9ページまでの内容を実際に掲載しようと思っております。ちょっと戻っていただきまして5ページで、この大きさなのですがけれども、折り込んだ状態をなるべく小さなものにしたと考えておりますので、この程度の大きさまで結構折り面が多くなってしまいますが、これぐらいの大きさで考えております。縦が15センチ横が16.8センチ程度を考えております。資料の13ページをご覧ください。ナンバー8「手打ちそば処常陸屋さん」という事業所さんがあるのですが、

最近聞いた情報によりますと9月1日付で閉店するという予定を聞いております。さらに、本日1枚カラー刷りで20ページというページ番号がふつてあります資料ですが、こちらの方で、8月14日に申請がありました中村淳志さん。レンコンを栽培している方なのですが、この方が、新たに登録されております。結局、1店舗が閉店で1店舗が追加になりますので、変わらず現在の39事業者という数字になりますのでご報告させていただきます。以上です。

会長：ありがとうございました。ただいま事務局の方からPR用マップについての説明がありました。何かご意見があれば、皆さん方から伺いたいと思いますが、自由な発言をお願いしたいと思います。

梅木：ちょっと確認するのですが、その地図は防災マップですよね。

事務局：そうです。ベースは防災ハザードマップで大きさにA1サイズになりますので、その全体面の大きさを示したいので、サンプルとして掲げました。色は、洪水のエリアの着色になっていますので、こういった色はつきません。

梅木：はい分かりました。

会長：自由に発言していただきたいと思います。伊東さん。ぜひお願いします。

伊東：ちょっと教えていただきたいのですが、作ったものの配布は、今のところ小中学校や事業者に配るかたちのイメージでよろしいですか。他に公民館とか配布方法があれば教えていただきたいと思います。

事務局：先ほど言いましたように予算額といたしましては55万円程度になりまして、実際に見積もりを取ったところ、5千部程度を作成できると思われれます。まだ配布の内訳については、どこに何部というようなことは考えておりませんが、広く周知できるように配布したいと思っております。

伊東：はい分かりました。

会長：森山さん。ぜひ意見をお聞かせください。

森山：マップは地産地消ということで地元配布されるのでしょうかけれども、守谷サービスエリアは外人の方も結構、お買い求めいただいているので、主旨は違うのでしょうかけれども、そういう方にも見てもらえるようなかたちも考え

られるのかなと思いました。

会長：貴重なご意見ありがとうございました。

相良さん。ぜひ、お聞かせください。

相良：配布方法が未定ということですが、各、家庭についてということであると、何部ぐらい必要なのでしょう。2万件とかですか。

事務局：2万世帯を超えenと思います。防災ハザードマップは全戸配布できると思いますが、その分、同数作るとなると、もう少し予算が必要になってくるかenと思います。また、閉店になってしまうお店とか、或いはこれから追加になったりということを考えますと、あまり多く印刷してしまっても、その間に何か変更点が出たときに無駄になってしまうのもどうかとは考えております。

相良：もりあぐというパンフレットの方をちょうだいしているのですが、それどれくらい印刷されているのかちょっと分かりかねるのですが、うちのお店はレジのところに置いてあり、興味のある方は持って行かれます。イオンタウンの方のお店はすぐになくなってしまいますね。それなので、5千部ということであると、各店舗に配布して、興味のある方はってということになると、1人で何枚も持っていくっていう方もいるので、その辺のところはちょっと難しいのかなというふうに思うのですが、もりあぐさんの方ではどれくらい印刷されたのでしょうか。

伊東：4万部になります。各事業者さんに最初に50とか100の単位を渡して、また必要に応じてお渡しをしているところがございますが、一生懸命配ると1年間で4万部近く捌けてしまうのが事実でございますので、需要がそのぐらいあるのかなen思っているところです。先ほどの5千部ってというのがございましたので、42事業者があると考えた時に、おそらく事業者のところ配るとすると最低でも50お渡しして残りを例えば公民館とかに配るとかそんなかたちになるのかなen思ってちょっとイメージをしていたのですが。

会長：ありがとうございます。

黒島さん、いかがですか。

黒島：今、見せていただいたものを使うのはどちらかというenと、事業者側というよりは、実際に地図をもらって、どんなふうに使いたいかenという目線で見ているのですが、私は、あんまり守谷の土地に詳しくないので、あの地図でたどり着けるだろうかen思ったのですが、住所は入っているのですか。

事務局：住所も入ります。

黒島：では、地図で全体の大まかな位置を確認して、あの地図でたどり着けなさそうな細かい道は住所を見てということですか。

事務局：そうですね。A1サイズの地図面なので、ある程度検討がつけばということで、ふれあい道路とか、国道294号とか、そういった幹線道路が分かればある程度行けるかなとは思っているのですが、地図面が小さいとやはり北に行っているのか南に行っているのかっていうのがちょっと分かりにくいかなとは思いましたので、ある程度大きな地図で、そのお店を、番号1234とかっていうピンかなんかで表示しまして、その位置関係を掴んで、その場所にたどり着いてもらうようなイメージもありまして、あとは今、秘書課の方でガイドマップを作っております、その内容にインターネット上で自分の位置情報を出すと、この守谷生まれのマップのところの自分がどこにいるかっていう情報も入手できるようなものもつけられるというふうに印刷業者の方から提案されておりました、それであれば、地図上で自分がどこにいるかっていうのを掴んで、その近くに一番近い守谷生まれの事業者さんがどこにあるかっていう情報まで、スマホの方を操作して、そこまで行けるっていうサービスもつけられるというものがありますので、そういったものも取り入れていきたいと思っています。

黒島：はい。分かりました。

会長：それでは高島さん。ご意見をお願いいたします。

高島：大きさ的にはいいと思います。

会長：そうですね。今日初めてなので中々分かりにくいところがあると思います。
ありがとうございました。
鈴木さん、どうですか。

鈴木：完成予定はいつごろなのでしょう。

事務局：完成は2月ごろを予定しております。なるべく1月下旬ぐらいには完成させたいと思っておりますけど、一応2月を予定しています。

鈴木：あとこの登録なのですが、先ほど追加で、中村さんという方が追加登録されたかと思うのですが、これは随時申請できるのですか。

事務局：随時、登録の方は申請受け付けしておりますので、いつでも大丈夫です。

鈴木：今回これを作って配布されるわけでしょうけれども、先の話を書いてあれなのですが、商工会の会員さんでも前回登録されなかったところがありますので、そういった、地産地消にも頑張っているような事業者を商工会としても入れていただければと思っておりますので、次回作る時には、商工会としても登録を増やせればと思っています。自分としてもPR不足だったなというところがあるので、ちょっと反省はしているのですが、できる協力はしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

会長：ありがとうございました。今西さんぜひお願いいたします。

今西：すいません。これ、5千部ということで、部数自体に限りがあるのであれなのですが、あと、時期的に間に合うかどうかというのはちょっと無理かもしれないのですが、毎年ハーフマラソンをやられてますよね。そこで、例えば市外から来られるような方にゼッケンの案内とかそういうのを出せるのかちょっとどのタイミングなのか分からないのですが、もし案内を出されているのであれば、そこにこういうマップを入れといて来ていただいた時にお土産として買って帰ってもらうとか、来た時にちょっと美味しいそばがあるので食べていこうかなというふうに思ってもらえるというようなことになれば非常にいいのかなと、割とありがちなパターンかもしれないのですが、そういう使い方もいいのかなと思ったところです。

会長：ありがとうございました。参考になりますので大事にしたいと思えます。杉原さんお願いします。

杉原：特に指摘するようなこともないとは思いますが、ある程度の案ができ上がったのを見たいと思っております。

会長：ありがとうございます。ところで杉原さんここに、地図面とか書いてありますが、ちょっと見て感想はどうでしょうか。

杉原：パッと見られる見開き用の折り方があるというのを聞いたことがあるのですが、そんなものもあれば面白いのかなと思います。

会長：そうですね。結構そういうのを使っているところが見受けられますか。先端に行くわけですね。染谷さんは紙面の作り方で、今、杉原さんからお話ありましたが、そういったものを今まで見たことや手にしたことはありますか。

事務局：私はないです。

事務局：最初に戻ってしまうのですが、A5サイズで見開きA4ということで、1万部の予算を取りましたというふうに前回の第10回の協議会で、当時、会見の方が説明しているとは思いますが、2つの考えがあると思ひまして、地図で場所をちゃんと分かるように作成するタイプと、地図はそこそこで、記事とか写真とかを入れてこれぐらいの大きさに作るという両方の考え方があるとは思ひて。ただちょっと私の方でせつかく登録されているのに今スマートフォンとかで位置情報とか、どの辺に行けばというのは探せるとは思ひのですが、ちょっとそういった環境にもない人にもやはり知っていただきたいっていうのもありましたので、古臭い作りになりますけど、このような、大きな地図というふうに考えてみましたので、本日どちらの方向性でいくかっていうのも決めていただくとこれからの作成に活かされますので、よろしくお願ひします。

会長：伊東さん。いかがでしょうか。

伊東：はい。ちょっと先ほどの杉原さんの発言に戻るのですが、先ほど多分、ぱらぱらと、こうやって開いて簡単に広げられる折り方なのですが、名前からいくと有名なものが一つは、三浦折りっていうのがあるのですが、これが多分一番代表的でよく人工衛星を上げた時のパネルを広げたりとかするのに使われたりとか、いろんなところで使われている最先端と言えは最先端なのですが、昔からある折り方でして、三浦折りっていうのが一つある。ただそれを多分、業者に依頼するとちょっと値段が上がるので、5千部っていうのは多分難しくなってきたり4千部とか3千部になってしまうのかなと。折り方を優先するのか、もしくは部数を優先するのかという部分はあるのかなと思ひています。あと、多分、このマップの難しさっていうのは目的をどこに設定するのかとか、それに応じてどのような特に記事面であったりとか、そのあたりの統一性をどう持たせていくのかっていうのが難しいのかなと。結構見ていくと、取り組みを紹介しているところもあったりとか、例えば商工会さんでいくとがぶりメンチなので、例えばがぶりメンチを買いに商工会さんに来られてもがぶりメンチはないので、そういう時に例えば、取り組みを紹介するような記事にするのかとかですね。多分いくつか今回の掲載品の中には多少レイヤーが違うのがいくつか入っているのかなと。それに対してどのような記載方法にするのか。ここは一つの味噌かなと思ひています。それともう一つちょっと、せつかくなので発言させていただくと、今回、中村さんが加入されたり、あと逆になくなったところもありますので、今後の維持管理といいますか、更新をどのようにやっていくのか。せつかく作ったのに1回きりで終わってしまうと非常にもったいないですので、先ほどの商工会さんから話のある

ように、多分どんどん増えてくると、これいいねと、どんどん掲載したいというお店が増えていって、結果的にこれが地域の力になっていくと良いと思うのですね。その時にできれば1年に1回更新できるかどうか分からないのですが、定期的に更新していくっていうことが必要と思うので、この更新だったりとか維持管理をどうやっていくのかと。せっかくやるならですね、ちゃんと継続的な事業にしていかなければならないと思いますので、その辺りも付け合せしながら進めていければいいのかなと思っていますところす。

会長：ありがとうございます。何かやろうと思えば、必ず費用がかかりますよね。いや費用対効果ということも考えなきゃいけないのですが、でも、今の伊東さんのご意見は参考になりました。ありがとうございます。今のお話に関連して、染谷さんの方の考え方をお聞かせいただければと思いますが、どうでしょうか。

事務局：私の方は先ほど鈴木事務局長の方からもありましたように新たに追加になった場合、今、伊東さんもおっしゃいましたけど、新たに追加した場合っていうのは、新たに作る必要も当然あると思うので。ただ今現在、考えている案ですと、あと3事業者は増やせる大きさにはなっておりますので、増えた時点で本来は、やっぱり新しく作り直して、新しいものを出したほうがいいと思いますので、あまり膨大に作ってしまうと、ちょっともったいないのかなっていう気もしています。できれば毎年のように更新できれば一番いいとは思ってはいるのですが、そこまでちょっと予算的なものもありますので、その辺は難しいかなと思うのですが、やっぱり古いものをずっと置いとくわけにもいかないので、何かしらその新しく増えた事業者さんの方も紹介したいと思っています。

事務局：基本的にはですね、先ほど染谷が言ったように毎年更新できるように、予算を要求していきたいと思っているのが事務局の考えであります。やはり、先ほど言ったように入れ替わり等々もありますし、また、商品であっても、新しいものを商品化したいとか、同じお店さんでもいろいろあると思いますので、その辺を踏まえて毎年毎年更新できれば一番いいのかなと思っていますし、それとですね、マップは何年度版とか、またはバージョン幾つとかって言ったように、バージョンを上げていくようなかたちでこのマップがいつ作成されたものか分かるようにきちんと表記してですね、いつ時点のものだと分かるようにはきちんとしていきたいと思っています。また、残り3店舗しかやはり枠がないということであるので、その辺もですね、今後どんどん増えていくということになれば課題になりますので、今回の折り込みではないかたちじゃないと対応が難しくなる場合もあると思いますが、今回はこのようなかたちで考えているということでございます。以上

です。

会長：ありがとうございました。

梅木：数に5千部の限りがあるということなのですけども、その一つの考え方とし5千部でいいのだけれども、それが見て捨てられるとか見ても終わってしまうとかたちではなく、例えばその地図に表記された店舗にその地図を持っていくと、1%還元してもらえとか、例えばその地図に梅木商會って出しても、うちは負担ゼロですよ。でも、そこでお金をもらうのではなくて、その地図を使っている間は捨てられないような考え方もあるのかな。それで、例えばその地図を持ってお店に行けば、それぞれ1%でも、まあ、何%でもいいのだけれども、いわゆるその地図の広告代はもらわないけど、ぜひその地図を持って行った時には、割引してくださいよというような施策があれば、その地図ってというのは見ただけで捨てられない。次どこに行ってみようかな。その地図をまた有効に使われる。というような何か継続して使えるようなものができればなっていうのがまず1点で、あと2点目は、今どこかで何か食事しようっていうと、必ずスマホを使いネットで見るわけですよ。自分たちも地方に行った時には必ずネットでグルメ何とかとかそういうものを見るので、ネットから地図には誘導できないけれど、この地図からネットには誘導できるのですよね。そういうふうな5千件に配布したなら、それが1万件に到達するようにネットの方に誘導し、なおかつ守谷市のホームページの中では、例えば守谷グルメサイトというようなことで、そこに誘導していくようなことをしていくと非常に有効なものになるのではないかな。チラシのように1回見たら捨てられたり、毎週毎週、それこそカスミの広告のように入る必要もない。それが継続的に使えるようなかたちになればもっと有効になるのかなというふうに思っています。

会長：ありがとうございます。やはり今、梅木委員がお話されたように、何か自分にとってプラスになるものがあれば、人間、気持ちが進みますね。また受ける方も自分の方で、そんな負担にならないことであれば、販売促進に繋がるということにもなると思います。ぜひこの辺は検討していかないとけないと思います。それからちょっと私、杉原さんに伺いたいのですがね。例えば地図なりこの大きさで作ったとして、折り方によっては違ったイメージが湧くようなものにできますか。

杉原：見やすければ見る。見づらければ見ない。そのため、量よりも質ということの方が、面白いと思います。

会長：参考なる話だと思いますね。これは今、すぐ決めておくと作業が進むのですが、そう簡単には判断しにくいところがあるのではないかと思うのですね。私の意見を先に言ってしまうとまずいと思うのですが、私は一覧性のあるものが大きさより大事だというふうに思っているのですよね。先ほど事務局の方からお話ありましたように、今どこにいて、どう行ったら、どこの店にたどり着くとか、そういったことは、この辺の大きさがあると明確になるのではないかと思います。ただ大きいから駄目だっというふうなことになるのを防ぐ一つの方法を考えれば、今、梅木さんの方から提案があったようなことも考えられるのではないかというふうに思いますが、染谷さん、この辺でちょっとご意見を聞かせてください。

事務局：正直、私はできればこのマップ式で作ってみたいなと思っています。私の考えとしては、1回この大きな地図で作ってみてまずは市内で知っていただくという、市民の方に知っていただいて、そのあとロコミで市外の人に守谷のどこどこに行くところというものが売ってるよとか、そういったものでどんどん広がっていけばいいなというふうに思っていますので、まず守谷市内の人に、守谷生まれの食品を販売しているお店がどこにあるのって言ったときに、どここの近くというふうに地図で示せないかなっていうことで今回、提案しています。

会長：はい。よく分かりました。相良さんどうぞ。

相良：ちょっと余談かもしれませんが、先ほど、スマホから位置情報を確認して、そのたどり着くという方法のお話ありましたけれども、私も森山さんと同じ年なので、やはりそういうのが苦手な年代になるので、その地図を頼りにっていうところも大きいかと思えます。それで、今そこに表示されている防災マップということですが、地図を書くにあたっては、まだ決定はされてないと思うのですが、防災マップなので、川の面積が広く出てると思うのですが、川のところをもう少し小さくして、地図の方を大きくしていただけたら、例えば老眼鏡出せなくとも、見えるとか、そういう、私の年代にあった対策もちょっと入れていただけたらありがたいなと思えますし、文字もお店のところはちょっと濃いめにしていただければ、より見やすいのではないかなというふうに思えます。

会長：私も、実感ですけどね。よく宣伝広告物にいろいろ書いてありますけどね。字が見えないのですよね。見えないと読まなくなりますね。拡大鏡持ってみるのもちょっと億劫になりますので、その辺は大事なことと思えますよね。私ごとになりますが、さっき最初にごあいさつさせてもらった時にですね。今回に限り、真面目にお話したいこと書いてきたのですが、そしたら焦点が

合わないのですね。今度この次何を話すのだったかなと思って、こちらの原稿見ないで話するのは、自分の癖になっていまして、ある程度の筋書きを頭に入れて話をするのですが、今日は参ったのは、字に頼ったら目が追いつかなかったのですね、そんなこともありますので、やはり最初から嫌われるような、あまり重宝がられないような広告物というのは、効果を削ぐかたちになると私も思っています。今、相良さんが言われたことに同感です。少し内輪話に通じるのですがね。染谷さん。こういう基本的なことをまとめるのは大事なことなのですが、時間の制限があると思うのですよね。パンフレットを作るまでの間のカウントもしなければいけないということになると、ある程度早いところで結論を出して、これはもう皆さんの同意を得なければいけないことなのですが、スケジュールを組まないといけないのではないかと私は思うのですがね。その辺で時間的にはどんな感じなのでしょう。パンフレットができ上がるまでのスケジュールとしては。

事務局：最初にですね、このマップで作ってもいいよというふうに結論づけられたとしてですけども、まずやろうと思っているのは各事業所、事業者さんのところに行きまして、写真はすべて自前で撮ろうと思っていますので、全ての場所に行って、守谷生まれののぼり旗を店先に立てて店構えをまずは撮って、撮りに行った際に、店舗の紹介文ですね、この記事面として使う、こういったPRをしたいというような依頼をして、FAX或いはメールで事務局まで送っていただいて、それを全部の場所でやろうと思っていますので、そのPR文なんかもお忙しいところ依頼しますので、その辺で一応一月ぐらいは見てはいるのですが、写真の方が、お店がそこがあれば、撮ることもできると思うのですが、住化ファームさんのようなイベントに参加しているところだと、そのイベントの時の写真を撮らなければならないので、事務局の方で撮らなくても会社として写真があるよということであれば、提供いただいたりとかってということも考えてはいるのですが、やはりイベントのみの参加ってというのが他に事業者さんでありますので、そのイベントに合わせて写真を撮ったりってことまで含めると10、11月ぐらいまでには、写真をそろえないといけないのかなと。まだちょっと具体的に地図業者が決まっているわけでもないで、そこまでの打ち合わせの方はできていませんけれども、1月末ないしは2月に完成させるっていうふうになるとまずはその写真を全て撮って、PR文を各事業者さんの方から出していただいてそれができればあとは地図の防災ハザードマップの必要のないところを削ったり、あとは、先ほど相良さんの方からも言われましたように文字を大きくしたりとかユニバーサルデザインの方でも作ろうと思っていますので、見やすくわかりやすくっていう表示にするのは地図業者と打ち合わせすればいいことだと思っていますので、まずはこちらで情報を早めに入手するっていうことが大事になってくるのか

などは思っています。

会長：分かりました。今事務局の方と裏話をしたのですがみんなオープンになっていますので、ご理解をいただいたかと思います。ここで右か左かっていうような結論づけはなかなかできないと思いますが、概略地図、地図面ですね。こんなイメージでここを直した方がいいとか、こうやったほうがいいのかっていう方が、ご意見があったら、お知らせいただきたいのですが、いかがでしょうか。なかなか新しいことに取り組みますので、こういう方がいいよというようなご意見は出にくいと思いますが、ぜひ、こんなところ、先ほど相良さんからお話ありましたように、字が小さいとまずいというようなことも一つの提案だと思いますが、地図を作成するにあたっての皆さん方の特に考え方がおありでしょうか。はい、伊東さん。

伊東：すいません。誰も発言がなかったので、一応、専門分野は地図に近い分野でありますので、発言をしますと、多分、今防災マップなので色がついているので、まあ何とか見栄えがあるのですが、色が抜けると非常に白黒の物で味気のない地図になってしまうのはまず一つあるので、全体的な守谷のイメージが分りやすいように例えば農園とかですね、農業系で使われているところに関しては色を少し付けるとかですね。あとは住宅地域に関しては少しまた違う色を付けるとかすると、何となくここがみずき野だよ、ここが新守谷だよとか、イメージしやすくなるので、土地利用によって少し色を付けるというのは一つかなと思います。あとは一般的にやるのが主要幹線、294号とかふれあい道路とか県道とか、こういったものはより太くすると見えやすくなると思います。あとは主要な例えば駅であったり、公民館だったりとか皆さんがよく利用するところに関しても、より強調した記載とかですね。そういったものをやると、少し分かりやすくなるのかなと思います。あとは一般の方とかは、大体はカーナビとかを使っていくので、住所で検索していくのかと思うのですが、パッと見その地図見たときのイメージとして頭に入りやすくするのが重要なので、そういうアクセントをつけるというのが重要だと思うのですが、そのあたりは地図会社さん、多分、デザインする会社さんとかも、多分いろいろと把握されていると思いますので、市役所さんの方で協議しながら進めていただければいいのではないかなと思います。

会長：ありがとうございました。大変参考になります。今の伊東さんのご意見に対して関連することで発言をいただける方がおりましたら、なかなか突然なことで、ご意見と言っても難しいと思いますが、よろしく願います。

梅木：地図を作るにしても、これから印刷の方と、十分に話をしていくでしょうし、その中で守谷はシティプロモーションでしたっけ。その辺もよく相談をして、

横の話の中で作っていったらいいのではないかと思います。

会長：ありがとうございます。ざっくばらんに言って、あとは事務局の方にお任せいただけますでしょうか。よろしいですか。

各委員： 一異議なし

会長：必ず皆さん方のご期待に添うようなものを作り上げて参ります。そういうことで、ご承認を得たということですのでよろしいですね。皆さん方のよろしいという意向をいただきましたのでお任せいただきたいと思います。時間も11時12分になって参りました。皆様方からいろいろ貴重な意見をいただいたので、ぜひ、今後の作業に結びつけていきたいと思っております。次に協議事項の方に移りたいのですが、新しい協議事項ですね、2番の啓発用消耗品について、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局：はい。資料の10ページ目をご覧ください。今年度の予算ではもっと広く守谷生まれの食品をPRして周知を図っていこうということで、消耗品の予算を計上しております。まずPR用のポケットティッシュについてですが、登録事業者の店舗やイベント時に配布する予定で3千個×2種類の計6千個を作成する予定でおります。まず左側のA案についてですが、ロゴマークとPRポスター右側のB案については、ロゴマークと守谷生まれの食品の定義を掲載しようと考えております。1枚めくって11ページ目をご覧ください。次にクリアファイルと、マグネットのデザイン案になります。クリアファイルは小中学生に配布する予定で7千枚を作成する予定でおります。またマグネットにつきましては登録事業者の方に配布する予定で、千個を作成する予定でおります。ロゴマークのシールにつきましては、今年度も小学生に配布する予定で、10万枚を作成する予定でおります。先ほどのティッシュなのですが、私の方でサンプル品を作りましたので皆様の方におまわしいたします。あとはクリアファイルの案についてもですね、こういったものを今のところは紙で挟んでいるような状態ですけれども、こういったものを印刷したいということで、案を作りましたのでこちらの方もおまわしいたしますので、ご確認の方お願いいたします。以上です。

会長：事務局の方から消耗品についての説明がありました。今度は違った角度からまた新しい気持ちでご意見を出していただければありがたいと思っております。皆さんいかがでしょうか。相良さん、お願いします。

相良：先ほどの意見とちょっと重複するかもしれませんが、今見せていただいた、守谷生まれの説明書きの方なのですが、やはりもう少し文字が大きい

方が見やすいというか、多分私たちの年代が一番人口的に多いというところであるとすれば、パッと見たときに、1度に黒いのが見えただけで、一つ一つ読んでいこうっていう気持ちがやはり、少し失せるので、できればこの空白の方から書き始めたり、それから守谷市と守谷生まれ食品推進協議会との間が少し開いたりしているとすれば、文字を大きくしていただいた方が、いただいた方が何書いてあるのだろうっていうよりも、なんか書いてあるというところで終わってしまうのかなって私が見た瞬間にそう思ったので、やはり文字は、作成する方がたにとってはそのパソコンの文字とかそういうもので、文字が小さくて、それから、スマホの文字も小さくても皆さん見えるので、なんなくこうやっていると思うのですけれども、私たちぐらいの年代の方も見るということだともう少し大きい方が読むという作業に入るのかなっていうふうに思います。私がこんな歳になるので皆さんにはちょっと理解しがたい点もあるかと思いますが、私が率直に思ったところでございます。

会長：ありがとうございます。確かに若い人は細かい字はよく読めるのですが、残念ながら、加齢現象が多少出ておりますんでね。高齢者にも分かるようなもう少し大きな文字というようなことは、大変必要なことだと思っております。ありがとうございます。

梅木：字を大きくすれば見るかは読みやすければ当然だとは思いますが、例えばこれ一つこっちで言うとね。まず、字が多すぎるっていうことだと思います。大きさ以上にその字がこれだけあったらまず読まない。大きさじゃなくて読まないと思う。この中で、例えば、3行ぐらいで伝えられるようなキャッチコピーかなんかだけでも十分。この中で、食品は何とやっっていう説明はいらぬのではないかなと思います。大体これ、どうやって配るのか分かんないのだけど、駅前でこれ配られた時に、しょうがなくてもらうのが9分9厘だから、これを読むことはまず皆無に等しい。するとまず、読ませるなら3行とか4行とかにまとめて、本当の一つのコンセプトだけにしないと字の大きさ大きくならんし、伝えきれなくなってしまうのではないかという自分の感覚ではそう思います。だからこっちもそう。このポスターは多分、相良さんには色にしか見えないから。ポスターに見えない。残念ながら。そういうところをまず、紐解いていかないとなかなかみんなの思いがかたちになっていかないので、多分そういうところなのではないかなと自分は思います。

会長：ありがとうございます。梅木委員の言われたことを参考に見てみると、確かにちょっとこう見た場合に、これだけ書いてあると読むのが億劫ですね。文言を短くすれば、スペースも空きますからね。字も大きくなりますね。染谷さん。今の梅木さんのお話ですけどね。それから相良さんのお話も関連するのですが、お2人の意見をここに取り入れたら私もいいものができると思う

のですがね、いかがですか。

事務局：そうですね。もっと情報を少なくして文字を大きくして、わかり易いのに変えたいと思っています。たたき台として私の方でこれぐらいしかちょっと思いつかなかったものですから、情報が入り過ぎてしまい分かりにくいものにかえってなってしまったのかなと思っていますので、もっと分かりやすいものに変えてみたいと思います。

会長：ありがとうございます。染谷さん充分この辺は分かっている、今までの例にしながらこれを作ったのではないかと思いますけどね。ぜひ皆さんの貴重な声なので、活かしていただきたいと思います。
はい、伊東さん。

伊東：すみません。今、多分色々事務局もお伝えしたいことがいっぱいあるのだと思うのですが、であるならば、ここはもう本当にさっき梅木さんがおっしゃったようにキャッチコピーぐらいにしといて、例えばQRコードをね、一個入れといてそっちに誘導して、細かいところはそっちで見ってもらうようなかたちであれば、若い人は、僕はあまりしないのですが、女性なんかはQRコードをよく読んでいる方も多いので、QRコードを一つ入れるっていう手もあるのかなと思いました。あとちょっとこれは質問なのですがこのポケットティッシュをどうやって配布するのかとかその辺りは事務局も考えているのだろうと思うので、もしちょっと考えていることがあれば教えていただければと思った次第です。

事務局：配布の予定としましては、来月、商工まつりがありますので、そのまつりまでに間に合えばまずはそこで、経済課のブースも出しますので、そこで配布して残りはやはり、事業者さんの方にも配りたいと思っていますので、取り急ぎはそういった使い方を考えております。

会長：ありがとうございます。高島さん。何かご意見ありますか。女性の方がこういったことは詳しいと思いますので。的を得たお話があるのではないかと思います。

高島：相良さんと同じように、字をもっと少なめにしていう感じで。あと私の思っていることなのですが、ティッシュもいいのですが、レジ袋とかそういうのはどういふあれなのでしょうかね。作らないかということですか。

事務局：そうですねレジ袋ということで私も前任者の会見の方から聞いたときにやさい村としてレジ袋っていう話が、この協議会に上がったとは聞いており

ますけれども、ちょっとレジ袋の方は今後廃止になっていく方向で今、コンビニとかでもなっていく方向でありますので、今年度に限ってはレジ袋というのは作る予定はないです。

高島：はい、分かりました。

会長：黒島さん、いかがでしょうか。

黒島：私も先ほどから出ているように、やっぱり文字の情報量を減らして視覚的にパッと分かるようなかたちにしたほうがいいのかと思っています。多分、ロゴマークだけでも、守谷生まれの食品って入っているので、細かい定義は分からなくても、守谷で作っている食品なのだろうなっていうイメージまではたどり着けると思うので、QRコードとかあればそこからさらに細かい情報にたどり着くこともできますし、そういう、伝えたい定義っていうのをぜひ知ってもらいたいっていう気持ちもあってこういうことかなとは思いますが、配るものとしては、文字の情報は、見た瞬間に字がいっぱいというよりは、デザイン性を生かして訴える方がいいのかなと思いました。

会長：ありがとうございます。大体ご意見も出尽くしたように思うのですが、他に何かありませんでしょうか。何か新しいものを作ろうとするといろいろ考えさせられることがありますね。常日頃あんまり気にしていないことがよく煎じ詰めると、これはまずいことなのだなっていうようなこともあると思います。相良さん。最初に発言いただきましたけど、もう一度今まで皆さん方の話を聞きながら感じたことありませんか。

相良：大体言わせていただいたつもりです。今日は、新たに入られた役員さん方も、意見を述べられて、この会がどんどん進んでいくように思いました。

会長：はい、ありがとうございます。新しい委員の方、こんなことでみんな垣根をとっばらって、そしてざっくばらんな話で、会議を進めておりますのでね。あまりかしこまることはなく、ぜひ、自由な意見を交換していただきたいと思います。森山さん。こんな雰囲気ですが、何か感想はありますか。

森山：何しろ、会の趣旨も知らない状況から参加していますが、皆さんのいろいろな意見をお聞きしまして、ざっくばらんないいながら、ちょっと勉強することが多いので、これから準備しながらこの会に参加したいと思います。よろしくお願いします。

会長：いわゆる会議で終わらないで、本音でものを話し合える仲間でありたいと思いますよね。物事の成功っていうのは仲間づくりだと思っています。大勢の仲間があって、そしてお互いに心置きなく意見の交換をしたり、たまにはまた世間話をしたりいろいろなことをしながら、そのうちからいいものが出てくると思いますのでね。ぜひ、新しく委員になられた方よろしく願いいたします。それでは事務局の方にバトンタッチをしたいと思いますのでお願いいたします。

6 閉会

事務局：はい。皆様ご意見ありがとうございました。先ほどのティッシュにつきましては、私がちょっと個人的に思っているのはやはり、シンボルマークですかね。このロゴマークで、守谷の食品いただきますぐらいでもいいのかなって今、皆様の意見を聞きながら考えておりました。もう少し分かりやすいものにいい案を作り直しまして作成したいと思います。次回の会議の時期といたしましては先ほどのマップの完成時期が1月末から2月ということですので、2月を予定しております。皆様、ご都合の方をおつけになって参加をお願いいたします。それでは第11回守谷生まれの食品推進協議会を閉会したいと思います。長時間に渡りありがとうございました。お疲れ様でした。